

2023年3月期 第1四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2022年8月5日

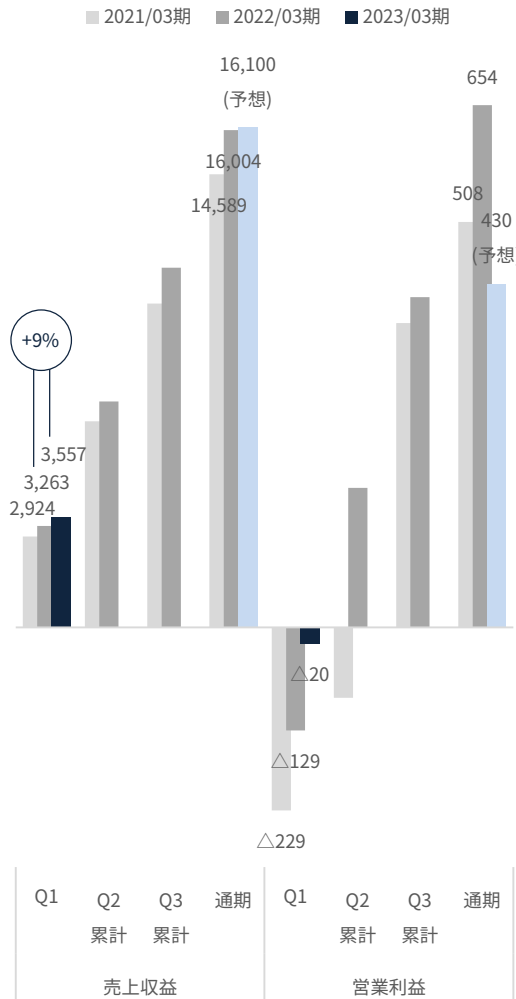
■ 2023/03期 第1四半期は、前年同期比増収増益（赤字縮小）

	2022/03期 Q1	2023/03期 Q1	前年同期比	(百万円)
売上収益	3,263	3,557	+ 294 (+ 9.0%)	<ul style="list-style-type: none"> • BtoCが巣ごもり需要一服の一方、世界的な設備投資再開に伴いBtoBが伸長
営業利益	△ 129	△ 20	+ 109 (-)	<ul style="list-style-type: none"> • 原材料価格高騰を製品販売価格の改定で対応し増益（赤字縮小）
税引前利益	△ 167	△ 104	+ 63 (-)	<ul style="list-style-type: none"> • 運転資金の借入方法を見直し支払い利息を圧縮も、為替差損が発生
四半期利益	△ 174	△ 109	+ 65 (-)	<ul style="list-style-type: none"> • 前年同期比増益ながら、黒字化には至らず
資本合計	1,673	2,686	+ 1,013 (+ 60.6%)	<ul style="list-style-type: none"> • 2022/03期末の2,468百万円からは、+ 218百万円（+ 8.8%）増
自己資本比率	18.0%	24.8%	+ 6.8pt	<ul style="list-style-type: none"> • 2022/03期末の24.5%からは、+ 0.3pt増
フリー キャッシュフロー	△ 230	△ 508	△ 278	<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産増加により、営業キャッシュフロー悪化

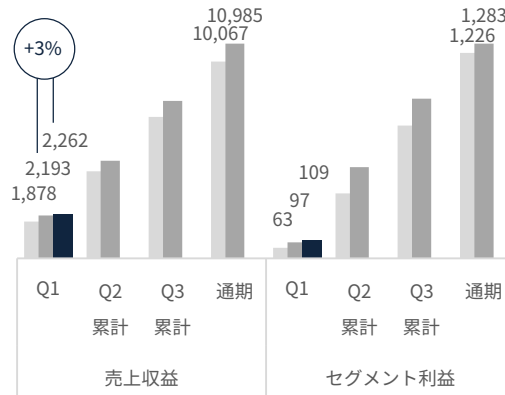
2023/03期 Q1 セグメント別業績

(百万円)

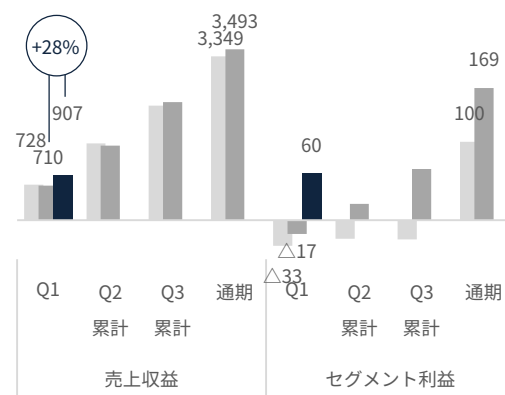
売上収益・営業利益



音響機器事業 売上収益・セグメント利益



情報機器事業 売上収益・セグメント利益



その他

ハイエンドオーディオ機器 (ESOTERICブランド)

- 国内市場では新型コロナウイルスの感染拡大が一旦落ち着き顧客に対する製品デモ環境が改善、前年度に上市したネットワーク関連新製品の引き合いが好調に推移。海外市場でも特に欧米において同製品の需要が堅調に推移し全体で増収

プレミアムオーディオ機器 (TEACブランド)

- 国内海外市場双方において前年度に上市したネットワーク関連新製品に加えターンテーブル関連製品が好調に推移し全体で増収

音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)

- BtoB事業は、世界各国で設備案件の需要が回復基調にあり、従来製品に加え業務用デジタルミキサーの新製品効果により販売が好調に推移。一方BtoC事業は、巣ごもり需要の軟化によりエントリー向け製品の一部において反動減。加えて、引き続き高い需要が継続している専門性の高い中高価格帯製品についても、部品調達難による供給不足が原因で販売は低調に推移。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体としては減収

機内エンターテインメント機器

- 国内市場はコロナ禍影響により依然低調ながら海外顧客向けにその他製品の出荷が好調に推移し、前年同期比で増収

計測機器関連

- データレコーダーは国内大型案件乏しいも海外向け出荷好調により堅調に推移。センサー関連は、好調の半導体製造装置市場において、シリコンウエハー製造機メーカーからプローブメーカーまで業界全般に渡り出荷を大きく伸ばし、結果として、計測機器全体が前年同期比で増収

医用画像記録再生機器

- 国内の消化器内視鏡向けレコーダーの販売が好調に推移、手術画像用レコーダーも国内・海外共に好調を維持。出荷を開始した新製品の4Kレコーダーは市場での評価も高く、今後の成長が期待される。結果として医用画像記録再生機器全体では増収

ソリューションビジネス

- 大口取引先へのサービス業務を停止した影響が懸念されたものの、大型受託開発案件の四半期導入が順調に進んだことなどから堅調に推移

- 前年同期比増収増益

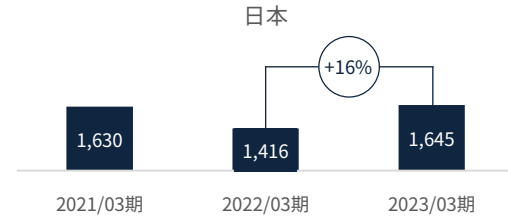
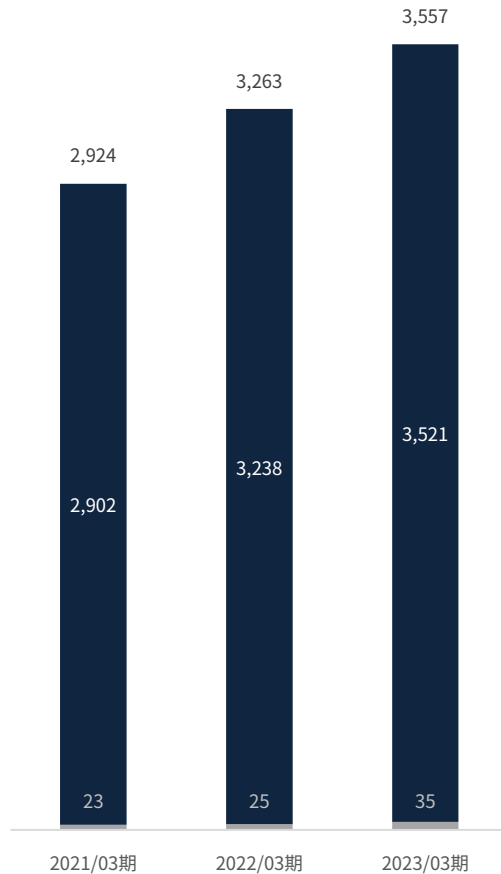
注： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q1 地域別業績

(百万円、+は前年同期比増収、-は同減収)

Q1 売上収益

■ その他地域

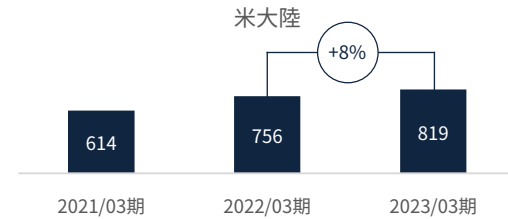


音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 無し

情報機器事業

- + 計測機器、医用画像記録再生機器、機内エンターテインメント機器
- ソリューションビジネス

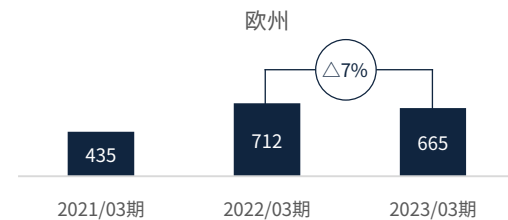


音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)

情報機器事業

- + 医用画像記録再生機器
- 計測機器

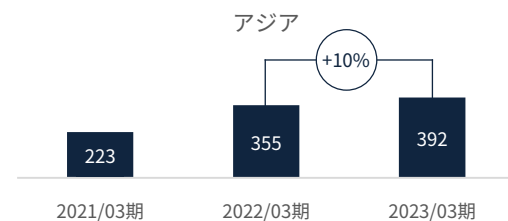


音響機器事業

- + 無し
- プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)

情報機器事業

- + 医用画像記録再生機器
- 計測機器



音響機器事業

- + プレミアムオーディオ機器
- 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)

情報機器事業

- + 医用画像記録再生機器
- 計測機器

註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q1 セグメント別・地域別構成比

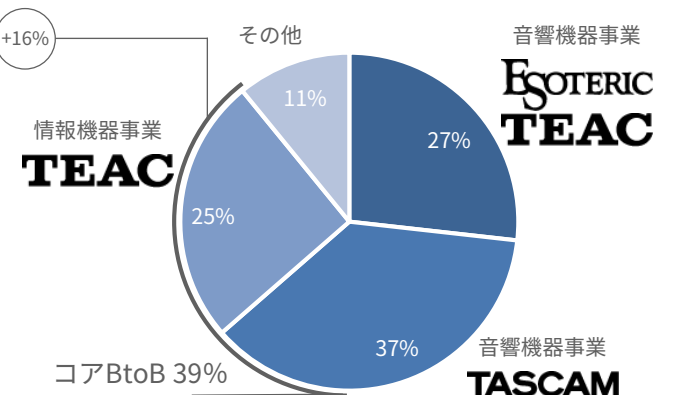
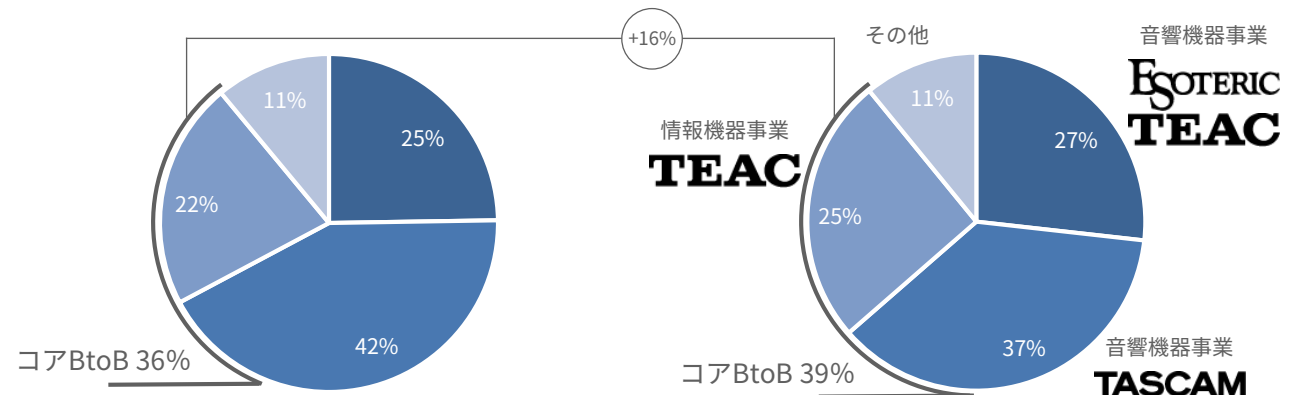
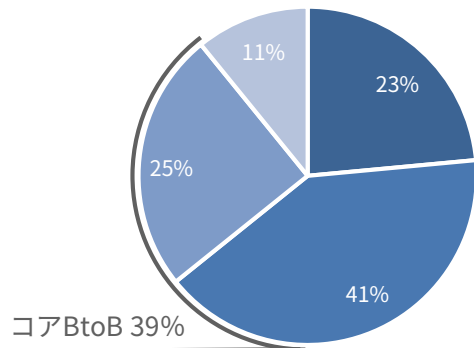
2021/03期 Q1 売上収益
2,924百万円

2022/03期 Q1 売上収益
3,263百万円

2023/03期 Q1 売上収益
3,557百万円

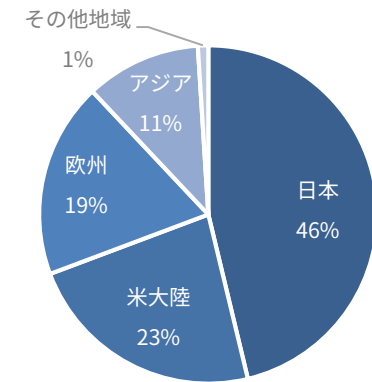
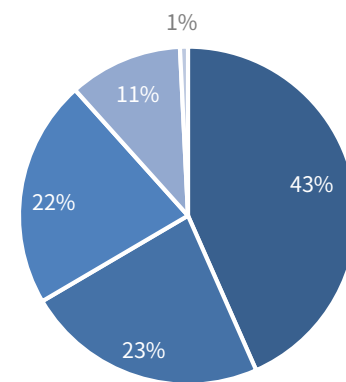
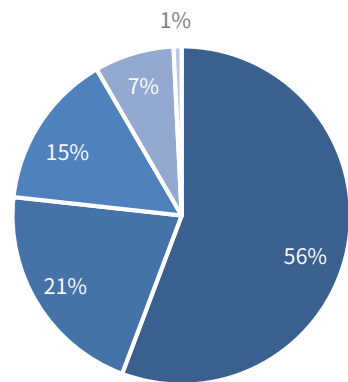
■ セグメント別

- BtoBは+ 16%増収
- BtoB比率は+ 3pt増加



■ 地域別

- 国内比率は+ 3pt増加
- 欧州比率は△ 3pt減少

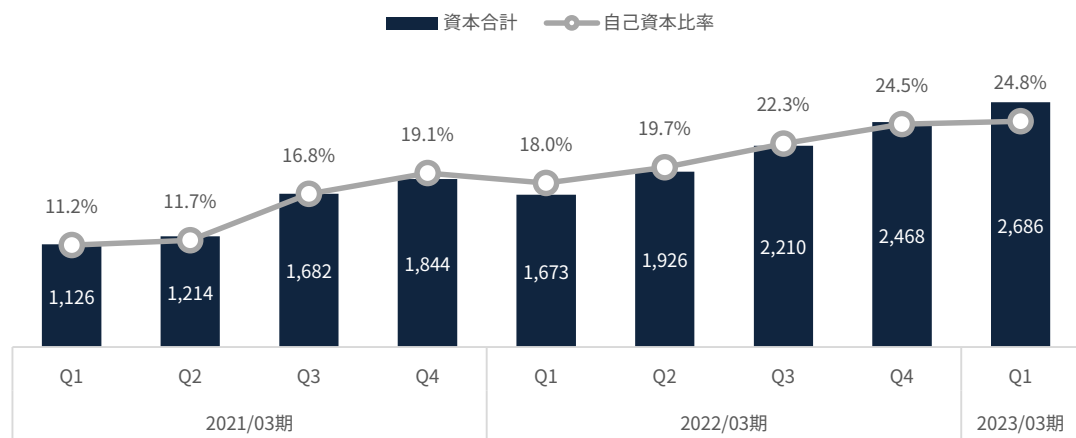


註： 2023/03期より産業用光ドライブ事業の報告セグメントを「情報機器事業」から「その他」へ変更。上記では、過年度実績対比を目的とし2021/03期ならびに2022/03期についても産業用光ドライブ事業は「その他」に含む

2023/03期 Q1 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

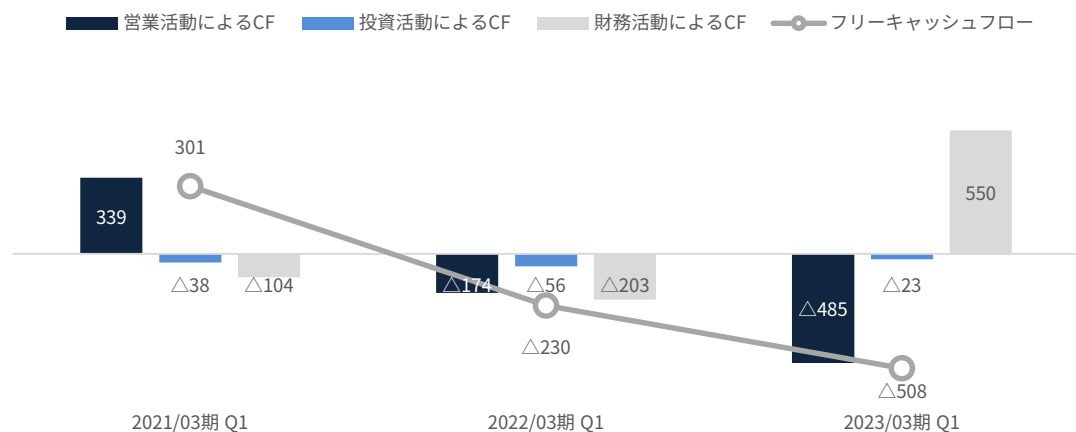
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+ 1,013百万円 (+ 60.6%) 増、前期末比+ 218百万円 (+ 8.8%) 増
- 自己資本比率：前年同期比+ 6.8pt増、前期末比+ 0.3pt増

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：棚卸資産の増加（前年同期比+ 1,355百万円）により前年同期比△ 278百万円悪化

■ 2023/03期 通期予想は、前回予想（2022年5月発表）を据え置く

	2022/03期	2023/03期 予想	前年同期比	(百万円)
売上収益	16,004	16,100	+ 96 (+ 0.6%)	<ul style="list-style-type: none"> 欧米におけるBtoC市況の停滞および半導体を中心とした電子部品の調達難はともに長期化し、年度を通じて継続すると想定
営業利益	654	430	△ 224 (△ 34.2%)	<ul style="list-style-type: none"> 調達可能な部品についてもその価格は更に高騰し、また物流も輸送期間の改善は進むものの料金は高止まりを想定。グローバルに販売価格の改定を実施中
税引前利益	481	300	△ 181 (△ 37.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 支払い利息は運転資金借入方法変更後のそれに基づく
当期利益	392	200	△ 192 (△ 48.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 前年比△ 48.9%減益となる200百万円での着地予想を据え置く
資本合計	2,468	-	-	
自己資本比率	24.5%	-	-	
フリー キャッシュフロー	△ 289	-	-	

■ 新中期経営計画「B-7030計画」を2022年5月に発表

• 基本戦略

ニッチトップ戦略

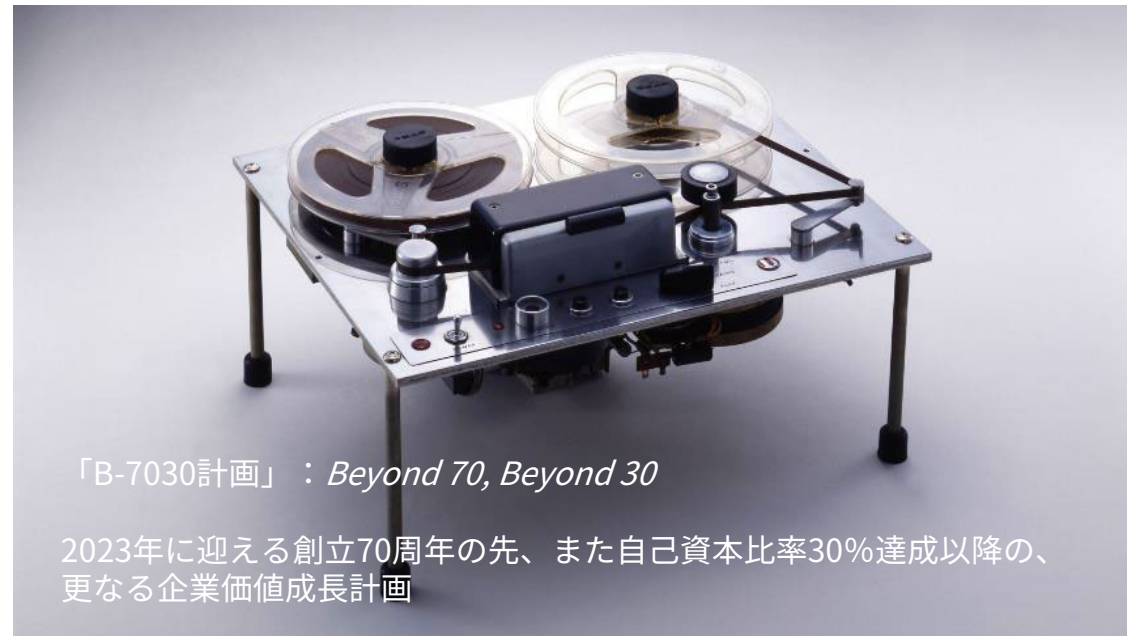
特定領域でトップシェアを獲得したのち関連製品のシステム・ソリューションを展開することで、当該領域および関連新領域での堅実な事業拡大を図る

• 財務目標

	2022/03期	2025/03期 計画	CAGR
売上収益	160.0億円	175億円以上	3.0%
営業利益	6.5億円	11億円以上	18.9%
ROE	15.9%	17%以上	
自己資本比率	24.5%	30%以上	
フリー キャッシュフロー	△2.9億円	8億円以上	

• 配当政策

2023/03期以降自己資本比率25%以上で復配実施



詳細については当社ホームページをご参照ください。
(URL: https://www.teac.co.jp/downloads/corporate/2022/20220513_ekrzer8a.pdf)

- 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器 中期事業方針
 - ・ ブランド価値向上によるファンベースの拡大



- 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器 中期事業方針
 - ・ 新領域開拓による収益力アップ

TASCAM

Sonicview 24: 24チャンネル デジタルミキサー

Sonicview 16: 16チャンネル デジタルミキサー

SB-16D: Danteステージボックス

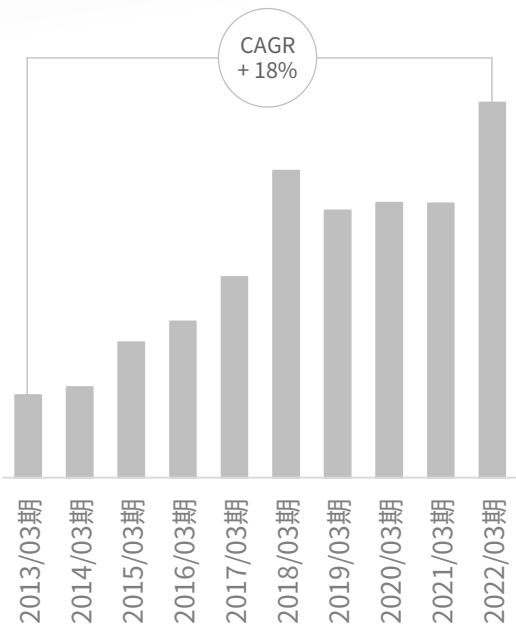


■ 情報機器事業 計測機器 中期事業方針

- ・ アンプ・指示計のグローバルトップへ

TEAC
TD-SC1: ロードセルシグナルコンディショナー
TD-700T: デジタル指示計
TD-9000T: カラーグラフィック指示計

アンプ・指示計 販売台数推移



■ 情報機器事業 イメージング システム ソリューション機器 中期事業方針

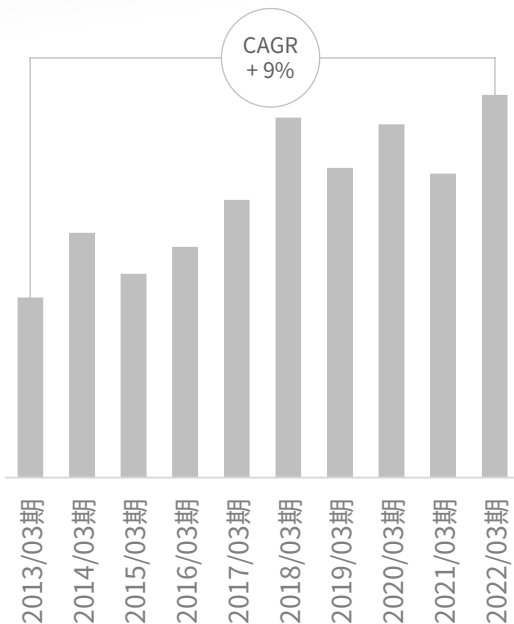
- 最先端画像技術とサーバーアプリケーションによる高付加価値ビジネスの成長

TEAC

UR-NEXT 4K: 4Kメディカルレコーダー

SURGEONE v2: 手術映像記録システム

メディカルレコーダー 販売台数推移



この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。